

よもやま話

この編集にあたり、様々なお話を聞き、現地を見てまわりました。
今まで知らなかったことをたくさん知ることができました。
ますます魅力ある山であると親しみが深まりました。
その中から、興味深い話を紹介します。

浪漫1

三池山が神話の「天孫降臨」の高千穂の峰に当たる!?
三池山に「天照大神」の居宅もあつた!?
茶臼塚山は「三毛の命の山陵古墳」ではないか!?
三池・大牟田は日本発祥の地か心しれない!?

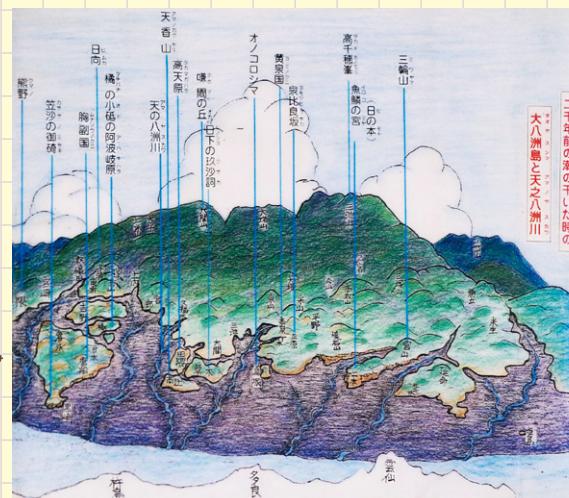
なんと、「古事記」「日本書紀」の神話にでる地名と大牟田の地名が150か所以上同じである。

神話では、伊邪那岐神と伊邪那美神がオノコロ島で国と神を生むと記され、有名な「天照大神」「神武天皇(若三毛野命)」を生んでいる。このオノコロ島は今の大牟田の鳥塚公園の丘であり、高天原は田隈ではないか!? 神話の「三毛」の地は、大牟田地方のことである。

「天孫降臨」伝説は、「古事記」にはニニギノミコトが三種の神器をたずさえ、「筑紫の日向の高千穂のくじふるたけに天降りましき」と述べられ、オノコロ島から見ると日がくじふるたけに出る(日向)久重岳に天降りることになり、南関地方では三池山のことを今でも久重山と言われており、まさに三池山が天孫降臨の高千穂の峰になる。

詳しくは、大牟田の郷土研究家 廣木順作氏(鳥塚町居住)の著書「日本發祥の地・大牟田」「ここが日本發祥の地だ 記・紀は邪馬台国を記述していた」など大牟田市立図書館所蔵を読んでみると、関連性を仮説されている。著書を読めば読むほど関連性が結びつき、邪馬台国もあたのように思われてきます。

市内には伊邪那岐神と伊邪
那美神を神祭にする神社がたくさんある。三池宮や熊野神社
(鳥塚町)など。



浪漫2 三池山(三池宮)には、中世時代に三池氏の山城があった!?

「三池山でも、武将たちによる乱世の戦いに巻き込まれており、その時代、山頂の城まで馬などで行き来し、戦いなど、どのようなものであったか想像してみてみたらどうでしょうか。」

三池山城は、三池郡一帯を治める三池氏の戦時にこもる山城である。

筑後南部の中世山城としては最大のものといわれる。

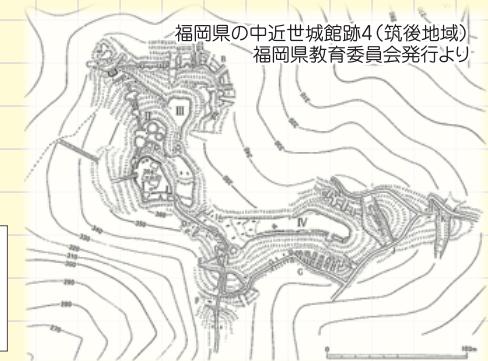
現在は、三池宮東側に大石の重なりか城壁の一端を忍ばせ、北側に古井戸、馬場跡が存在する。

大友勢がこの城を攻めたとき、高く鶴が舞い上がる如く呈したので舞鶴城といわれるようになったと伝わっている。

三池山は、多くのロマンの地であった。

眞実は、夢の中に浮かびあがるだろう。

- I城跡 II曲輪 III曲輪(曲輪(くるわ)は、城の内外を土塁、石垣、堀などで区画した区域の名称)
- B堅堀郡・横堀 C堀切(防衛のための溝(堀))
- D堀切 IV石切り痕跡 E堀切 F・K堀切
- G堅堀郡 H畠状空堀群



櫟野断崖

櫟野断層崖 大牟田市は、過去に三池炭田で有名になった市です。炭層を含む地層は古第三紀層(今から約5000万～3800万年前)とよばれ、この地層を地下から地上に押し上げたのが米の山断層です。米の山から南方に大牟田・高田線沿いに第1断層が走り、高取小学校あたりから北方へ第2断層が走っています。

櫟野付近では県道に沿って西側に崖が観られます。これは米の山断層崖です。岩本橋から北へ旧三池街道を登って行くと焼石山に出ますこのあたりの地層は大牟田市内の水平に近い傾斜に比べ直立していますこれは断層によって西側が隆起し、東側は陥没し断崖になったものです。石炭の層を観察することができます。

